

個人山行：平成25年2月24日

羊蹄山（1,898m）比羅夫コース

CL 安田・SL 山岸・西田（芳） 全員11名

私は、羊蹄山・ニセコグランヒラフスキー場のファンである。グレンデスキーヤーの私にとってスキー場の正面にドーン鎮座している羊蹄山を見ながら、いつかはスキー滑走して見たいなと思い続けその望みが叶う事になったのです。ハイシーズンの比羅夫コースです。7:00伊達道の駅に、現地集合のG氏以外10名が集合。

天気が心配、悪い予報が重なっておりどうやら風は弱い、現地判断する事で車3台出発。途中視界がよくなり羊蹄山麓が見える。8:35最終除雪点にG氏が待っていてくれた。4台の車を駐車してスキー支度。

体操・ビーコンチェック。9:05ハイクアップ開始。-7℃ほぼ無風、曇り視界はさらに良くなっている。トレース跡がある。歩きだしは雪原ですぐ松林の緩やかな登りの林道を進む。ここで私は、何か歩きが重くいつもと違うと思いつつ、最近腰・膝等の調子が悪くその性かな。違う後方から声が。ブーツをロックしたままだ。気を取り直し静かで雪を被った松林を行く。

樹上からの落雪があり注意、コース確認、休憩を挟み10:30松林帯を出る。視界が広がる。傾斜が増してくる樹木帯だが広い斜面も出てくる。10:50樹本が少ない。610mで休憩。モヤーと薄日が射しこむこともあり、上部の視界が広がり765mテラスが見えてる。アンヌプリの各スキー場も見えてきた。11:00歩き出す。木々がまばらになり、オープンバーンが

広がっている。急な登りだが雪が柔らかく歩きやすい。肩で一息11:30、765mに着く。視界が一段とアップしてくる。ここで記念写真。リーダーが遠くに見える葉ぶりの良い樹木（1本松?）を目標にタイムリミットの12:10まで登れる判断で11:40行動開始。テンションが上がる斜面を登りつめて行く。12:00町のサイレン音が聞こえる。さすが裾野から



町が広がる山である。タイムリミット寸前の12:05目標の樹木に全員到着900m地点である。933mピラミッドが右斜め前方にある。-8℃、無風、薄曇り、ナイスなパウダー日和になっている。この付近までトレースが途切れ途切れになる事もあったが続いていた。昨日のものかな。リーダー・サブリーダーが滑走の事を考えたこのコースに詳しいベテランスキーヤーだとの事です。有難うトレース。山頂付近の稜線らしき所も見えるが、稜線はさらに上部だとの事。アンヌプリ・ワイスホルン山頂も見える。ヒラフスキー場の全容が広がる。ここで昼食の案もあがったが、



リーダーが天気急変する恐れもあるので、視界が良いうちに下り松林の手前で昼食をする事で記念撮影をして下山支度。

ビンディングロックが片方出来ない。スキー板下が安定してない。リーダーの踏み固めてある後方に移動の声で OK となった。後で、サブリーダーに急斜面で準備中、もしスキーを流したら大変な事になると注意を受ける。その通りです。中途半端はダメです。12:25 滑走開始。上級者はノートラックバーンの急斜面を、リズムよくショートターンで滑って行く。各自の技術レベルでパウダーを楽しもう。ローリスクで行こう。足元の感触が良い、ターンのきっかけがつかみやすく調整もしやすい雪質が良いのです。適当に軽い雪と雪の深さなのだ。中間部で前方にクレパスありの声で、皆右に曲がり避ける。リーダーが下から滑りを写してくれている。12:50 松林の手前に到着。皆さんオープンキャンパスに水が流れるようにトラックを刻んできたようで・・・・・・？！

満足な笑顔です。テントを張りお待ちかねのランチタイム、ワイワイ・ガヤガヤ会

話が弾む。13:40 出発トレース脇を滑る。小さなギャップが連続する所もあるが快適に滑れた。180°のトレースを左に曲がると間もなく松林を出た。新鮮な快感のツリーランであった。短い平坦を歩き14:05 車置き場に全員到着。心地よい疲労感です。14:20 札幌の G 氏と別れて真狩温泉でくつろいで17:00 伊達道の駅に到着。安全運転有難うございました。

(車中の中からオロフレ山に夕日があたる様子が綺麗に映し出されていた)

今シーズンから始めたばかりの山スキー、ゲレンデを飛び出し、バックカントリーに挑戦してみたいと思い続け、憧れていた羊



締山滑走まったく経験が浅い私ですが、頼りになるリーダー・サブリーダーそして山仲間に感謝致します。

いつまでも忘れられない、1本になるでしょう。

記録 佐藤 尚武